機能性特許扇風機を活用した

（※抗ウイルス等・消臭及び食中毒試験実施）

（特許権取得製品）

結果報告書

１次試験終了日　　令和２年１２月２７日

２次試験終了日　　令和４年　５月１８日

３次試験終了日　　令和４年　９月１４日

※食中毒試験終了日　令和５年　３月　７日

※ノロウイルス不活化検査試験終了日　令和５年　３月　７日

※ヘルパンギー・RS ウイルス不活化検査；依頼予定

※鳥インフルエンザ不活化検査；受諾試験場あらば依頼予定

食環境衛生研究所

（５類）コロナウイルス Q&A　NO.9（参考文献２枚）

※１次試験検証結果は、　表紙を含めて「１３枚」に明記したとおりであった。

※２次試験検証結果は、　表紙を含めて「　４枚」に明記したとおりであった。

※３次試験検証結果は、　表紙を含めて「　４枚」に明記したとおりであった。

※食中毒試験検証結果は、表紙を含めて「　４枚」に明記したとおりであった。

※ノロウイルス不活化検査は、表紙を含めて「　４枚」に明記したとおりであった。

（※検証資料上記のとおり；別途保管⇒必要あらば開示する）

松井エネルギー研究所発

機能性扇風機　①

インフルエンザウイルス・新型（5類）コロナウイルス・豚コレラの不活化試験及び除臭・食中毒試験終了

※第１次試験実演依頼⇒前記研究機関へ⇒インフルエンザウイルス・豚コレラ・臭気

依頼日；Ｒ２年　２月吉日　　終了日⇒Ｒ３年１２月２７日

※第２次試験実演依頼⇒新型（５類）コロナウイルス（δ株）の不活化

依頼日；Ｒ３年１１月吉日　　終了日⇒Ｒ４年５月２０日

※第３次試験実演依頼⇒新型（５類）コロナウイルス（オミクロン株）の不活化・食中毒菌

依頼日；Ｒ４年　６月吉日　　終了日⇒Ｒ４年９月１４日

※食中毒菌試験終了⇒試験実施期間→令和５年３月５日～３月７日⑥記載のとおり

※標記は、国内特許取得物件（特許第 5540295 号；同 5681997 号；同 7429396 号）

過去の検証事例と新発見の案件を⇒PCT⇒国内移行分取得上記；同 7429396 号

※標記は、国際特許出願；アメリカ・中国移行審査中

１、　室内空気の活性浄化⇒基底作用から励起作用
２、　臭気の除去⇒臭気分子のプラズマ介入（?）解体作用
３、　人体の血行促進⇒磁気共鳴作用
４、　人体の指圧効果⇒振動風圧作用
５、　対害虫忌避効果⇒磁力線放射に伴う地磁気羅針盤撹乱作用(人体害虫含む)
６、　磁気波動熱微風の送風⇒誘導過熱体発熱作用（製品化後・希望者のみ）
７、　磁気波動涼風の送風⇒気化熱活用作用
８、　５類コロナウイルス・インフルエンザ等ウイルスの不活化効果は⇒④⑤後記添付資料の現況である。

９、　豚コレラ不活化に対応するは⇒④記入ページ下記添付資料の現況である。

１０，食中毒菌に対応するは⇒⑥記入ページ下記添付資料の現況である。

１１，ノロウイルウの件は⇒後日改めて。
※国内前記機関での１次・２次・３次査証・食中毒検査・ノロウイルス検査終了

機　能　性　扇　風　機　　②

標記ファンは、国内「取得特許済２物件」に、更に改良を加え、機能の向上を図り「PCT」（国際⇒国内移行分は取得）へ出願、現在は、中国向けに移行手続き中の「名称」物件であります。

標記「名称」物件の開発に着手した主体の目的は、「新型（５類）コロナウイルス等（インフルエンザウイルス含む）」「豚コレラウイルス」の不活化及び人間生活から繰り出される「生活悪臭等」の他、食中毒菌滅菌の解決に「チャレンジ」したファンであります。

※チャレンジしたとは、

１、　室内空気の活性浄化⇒基底作用から励起作用⇒文献がヒント

２、　臭気の除去⇒臭気分子の解体作用⇒別添紙のとおりである。（新；解決）

３、　人体の血行促進⇒磁気共鳴作用⇒文献ヒント

４、　人体の指圧効果⇒振動風圧作用⇒体感で確認できる

５、　磁気波動熱微風の送風⇒誘導過熱体発熱作用⇒国内特許・国際特許出願済み（製品化後・希望者のみ）

６、　対害虫忌避効果⇒磁力線放射風及び地磁気磁針撹乱⇒国内特許

７、　磁気波動涼風の送風⇒気化熱活用作用⇒体感感知

８、　旧型コロナ・インフルエンザ等ウイルスの不活化効果⇒別添紙④のとおりである（新；解決）

※Ｒ３年１１月上旬に依頼していた新型コロナウイルス（当時）不活化の試験に合格

９、　豚コレラウイルスの不活化に対する検証⇒別添紙④のとおりである（新；解決）

１０、食中毒試験⇒大腸菌９９．９９％・黄色ブドウ菌９９．９６％・サルモレラ菌 99.46%→の結果だった。

１１、ノロウイルス試験終了

※上記の意図に対し、今回の前記衛生研究所の査証（R2 年 12 月 27 日終了）で不足していた「試験が全て終了し、新効能効果を立証することが出来たことから、「１から１１」を含めて機能性プロペラファンとして主張できる条件が整いました。

上記８※は⇒別添紙④⑤のとおりである（新；解決）

機能性扇風機　③

「下記２減臭」・「同９；ウイルス（インフルエンザ等）・「豚コレラウイルス」」の
不活化・消滅検証依頼の件

某衛生研究所令和２年　２月吉日付で依頼したもの

※上記依頼の件：令和３年１２月末に「1 次試験査証合格」を得て終了

次回、新型（５類）コロナウイルスの「２次試験」不活化試験依頼

某衛生研究所令和３年 11 月吉日付で依頼したもの

※２次依頼の件：令和４年　５月末に「２次試験査証合格」を得て終了

某衛生研究所令和４年　６月吉日付で依頼したもの

※3 次依頼の件：令和４年　９月中に「３次試験査証合格」を得て終了

※食中毒菌検証合格・ノロウイル不活化減少検証確認終了

根拠資料機能項目

↓

（以下標記を本装置と言う）

１、大気の常磁性　⇒空気中の静磁場（基底）を、本装置を介し回動磁場を付与し空気を励起させ、大気の活性化を促進し、衰退空気をクリーン空気へと可逆させる。（※磁気は空気を活性する→文献）

◎　本作用は、本装置稼動中に限り室内換気を必要としない実証あり。
（※本装置稼動場所で、実証が出来る。）

２、大気の活性から派生する滅臭（含むカビ）　⇒室内衰退空気を、本装置を介し活性させると、有機性腐敗臭を消滅する。

◎本作用は、臭いの分子を拡散化＋アルファ作用、又は空気合体分子間に臭いの分子を可逆化成する反応作用ではないかと推測する。高齢者施設独特の異臭。（下記 9②作用と思料する；生活環境臭・人間体臭・大小便臭等の全臭）→３６５終日「継続除臭」を完結している。→資料あり（本装置を稼動させると、その場所で実証が出来る。（※今回の検証⇒延岡老健施設で立証⇒詳細は別添）

３、大気の境界域の区画　⇒密閉室内で本装置を稼動させると、室内常圧が外気常圧より高圧の優位性を保持する。

◎本作用は、外部からの大気汚染物質等を室内へ侵入させない効果を得ることが出来る。（※本装置稼動場所で、実証が出来る。）

４、磁気の活用から　⇒人体に磁力線を加えると水素原子・酸素原子の原子核に磁気共鳴が生じて体内エネルギー状態に変化が起き血行が促進される。（左手・フレミングの法則）（※文献）

◎本作用は、交互磁場の受射によるものと考察される。（サーモグラフィ検証方法がある。）（※文献）

５、ブレード角の相違から　⇒①４枚ブレードの、空気進入角の「２枚対角側」を同緯とし、他方の「２枚対角側」空気進入角に、送風の繰り出し位置に差異を設けることにより送風進行に時差相違（風圧⇒きっぷう返し）が生ずることにより、振動・振幅風を汲み出す。（※進入角の相違）

◎本作用は、①作物には、振動・振幅風を付与し生長促進を促し（実証済）、②人間には、体表に振動指圧効果を発生させる。③更に、振動共振連鎖作用により送風距離も伸長する。（※実証済；本装置を稼動すれば確認できる。）

⇒②植物の受粉等には何らかの媒介が必要であり、特に施設温室農法でのトマト等の栽培には、ミツバチ類の介在が必要とされているが、本装置から波生する振動・振幅風を付与すると自然受粉が可能となっている。検証圃場（宮崎県・大分県・愛媛県・兵庫県）の数ヶ所。（※実証済み）

⇒③飛ぶ為の器官（羽根）を持ち合わせた「小昆虫」は、本装置が発信する「振動・振幅風」を「受風」すると飛行不能（空中移動妨害）現象が生じる。（※実証済み）

６、角の相違から　⇒ブレードから発生する送風合体焦点（近距離へ）を操作することにより涼風を獲得することができた。（※気化熱現象を誘発）

◎本検証（盛夏時）は、当日の室内湿度（室内７１パーセント自然計測時）の大気環境で本装置を介し、送風合体焦点で蒸散（気化熱）手法を講じた。検証では、室内常温（32℃程度）の環境であった。本装置に対応する操作方法は、回動から生じる「送風合体焦点」を、回転するブレードから前方約７０センチ（進入角度；小ブレード風）から１００センチ（進入角度；大ブレード風）地点で合体蒸散（気圧が高まった箇所を拡散）させると、※体感温度で「１～３℃（？）」の降下温度を体感し、効能・効果の部分的な確証を得た。（※検証場所；弊所事務室であり、すべての環境領域での、結果は個人の評価による。）

７、ブレードの溝状から　⇒輪状拡散風を繰り出すことにより、建物の区画のない部屋であれば隅々まで、空気が動く現象。

◎本作用は、繰り出す輪状風が、壁等に到達する距離による時間差に相違が生じることから、反復流の不均一で室内空気を乱流拡散し、該室内空気を万遍なく均等化する。（※検証場所；弊所事務室で）

８、交互磁力線から　⇒磁性細菌保体「害虫」を忌避させる。

◎本作用は、目的とした環境内で、交互磁力線を放射して磁性細菌保体害虫の生活権内を撹乱し生存権を妨害する。農作物等に寄生し食害を齎す外敵に適用。（※検証事例あり）

９＊交互磁力線から　⇒特殊磁石で交互磁力線の回動を発生させ、細菌やウイルス撃退する。

※今回は特に磁気エネルギーを婉曲から介在（磁力磁場）させ、インフルエンザウイルスや５類コロナウイルスの不活化・細菌の滅菌及び臭気除去等（上記２のこと）にチャレンジの機会を求めたもの。

◎本作用は、目的とする環境「大気中・家屋床・土中」に交互磁力線を放射し、「対細菌・ウイルス」に直接又は間接的に「磁力線」を透過させることにより細菌・ウイルス源体に連続透過摩擦の擦加現象を生じさせ、又は高速回転磁力線が「対細菌・ウイルス」に激突し、直接及び間接的に打撃を与えることにより、何らかの化学反応が誘引され、「不活化・滅菌」に通じるのではないかと憶測する。？

他、特殊磁石の磁力線が高速回転することにより、磁気原子乖離現象を誘発し、可逆力の及ぶ範囲内に「プラズマ疑似様」の現象が誘導され不活化・滅菌を誘引するのではないかとも考察する。？（※因果は不明だが、前回の検証で立証済み→インフルエンザウイルス及び豚コレラウイルスは自然淘汰を含めて約９６％の不活化を実証→１次試験。２次試験の検証では、新型コロナウイルス「コビットー１９」に至っては、自然淘汰を含まず９３・5パーセントの不活化を実証⇒詳細は別添）

※他身体中気道内付着ウイルスについては、本装置送風孔口（約２５㎝程度前方）で回動交互磁力線の送風を直接鼻腔・口腔を介し深呼吸（４～５回）で肺まで送達させ（大きく口から空気を吸って、一旦息を止め、ゆっくり鼻から吐き出す動作と、次には、その逆で鼻から空気を吸って一旦息を止め、口から吐き出す動作を交互に繰り返す手法）ることで発症時のインフルエンザは快方（不活化の可能性）することもある。（小生を含め；実証事例多数あり）因果推測は、磁化された空気を呼吸により肺に吸引させることで、体内への空気供給（活性空気）に何らかの変化（イオン化？）を醸し、必然的に、免疫機能が高まり、体中で保持されている活性酸素内善玉因子及び悪玉因子に異変が生じ、細胞質内を介して出芽するウイルス発生等に何らかの妨害を加えることの他、本装置が繰り出す交互磁場の磁力風を人体が受射することから「体温の上昇作用」で免疫機能の向上活性が起因るものではないかとも推測もする。？（※引き続き検証して→立証したい）

※本装置を稼動させた室内では、インフルエンザ罹患者と終日、「同室」しても感染しない事象もあった。（今後も本事象等を綿密に検証していく。）

※他①・、本作用の高速回動交互磁力線が、大気気体中の「水（水蒸気）」に電磁的な刺激を加えることにより、「該水」が気体プラズマ化され、その結果、陽イオン(H＋)・陰イオン（O_2 －）、誘発された該イオンが自然の摂理に伴う因果による「可逆反応行程中」に①浮遊・飛沫・接着ウイルスの不活化②浮遊雑菌・カビ菌等の繁殖抑制、③浮遊アレルゲン等の変性不活を生じさせるものではないかとも考える。

※エラー！ リンクが正しくありません。大気中の酸素が、色々の物質と反応し、活性化（スーパーオキシドイオン化等の瞬時発生＝風圧⇒きっぷう返し→2段抵抗渦）した現象を誘発し、ウイルス・細菌等の「不活化」が考察される。

（※参考？1.300 激突⇒高速回動磁気応用磁場対電場・湿度・擦過熱・イオン→プラズマ化）

１０、扇風機ブレード色の選別又は扇風機直近後方に　⇒飛ぶ為の器官（羽根）を持ち合わせた小昆虫の志好色を選別し、ブレードへ着色又は志好色電球を付設する。

◎本作用は、同識別色又は志好色電球に寄り集まる当該害虫を、本装置の吸引作用を介し、回動するブレードで打殺する。（※実演すれば何方でも確認できる。）

＊志好色電球付設は希望者のみの工作となる

１１、涼温風の配送　⇒本装置中心外部に付設されている磁石の回転を介して、対峙側に過熱体を設け熱源を獲得する。

◎本作用では「磁力誘導加熱法」を採用し、得られた熱は、本装置前部熱源発生部（過熱体）から、前方危険防止枠格子線（アルミ線等）を介し磁気波動涼温風を前方へ配送することが可能。＊涼温風希望者のみの工作となる。製品化後可

※本熱を利用することで、ウイルス・細菌等の消滅が、より一層高まる可能性は大

１２、上述本装置は、其々の機能目的に応じた形式（モーターの出力）が必要である。

＊上記の「機能一部」は、日本国特許取得後、その後の検証で

「新たに発見し確認した」事項は「新発明案件として」

※PCT へ「バージョンアップ」して出願済。

（PCT→アメリカ・中国移行済み）

以上

松井エネルギー研究所
主任研究員　松井嗣光

機　能　性　扇　風　機　　④

第１次試験終了

↓

※前記衛生研究所への依頼検証結果の報告

（当該者から部分開示のみの許可を受けたので下記をご提示します）

①　　試験資材」⇒ウイルス等の不活化の試験結果↓

現在　　３０分後　　１時間後　　２時間後　　2時間4分48秒後

２００．０００体⇒５０．０００体⇒２０．０００体⇒８．０００体⇒　　全て消滅

８．０００÷２００．０００＝0.04→パーセント表示１－0.04＝９６％

依って本資材は、ウイルスの自然淘汰を含めると９６％不活化している。

更に、２００．０００体÷７．２００秒（2時間）＝27.77777777→1秒間の不活化数

8.000体÷27.8体＝288秒

⇒従って残りの8.000体は→4分48秒で消滅出来ることになる。

※余談ですが、別の所有特許を介在させ、即座にウイルスを不活化できる手法あり

②　試験資材」⇒豚コレラウイルス等の不活化試験結果↓

現在　　３０分後　　１時間後　　２時間後　　2時間4分49秒後

３２．０００体⇒２０．０００体⇒８．０００体⇒１．３００体⇒　　全て消滅

１．３００÷３２．０００＝0.０４０６２５→パーセント表示１－0.040625＝95.975％

依って本資材は、ウイルスの自然淘汰を含めると95.975％不活化している。

更に、３２．０００体÷７．２００秒（2時間）＝4.4444444→1秒間の不活化数

1300体÷4.5体＝489秒

⇒従って残りの1.300体は→4分49秒で消滅出来ることになる。

※余談ですが、別の所有特許を介在させ即座に、ウイルスを不活化できる手法あり

③　　消臭効果検証（アンモニア臭・酢酸臭）の実験結果は⇒（効果ありの判定）

消臭効果実演検証は、宮崎県延岡市北方町に存在する大規模介護施設で（令和３年で活用が８年目に突入）査証済み。（介護領域：関連臭気全くなし）

時系列簡易検証事例は、保管済み→興味ある御方様には、何時にでも開示します。

※自説評価

✂上記の「検査結果機能」を、「薬の効果」に例えたら、本機が繰り出す「磁力振動風」を受けた当該物は、その時点から、ウイルス等の不活化現象に加担し、「薬が徐々効いていく効果」と同じようにウイルスの減少効力を誘導するものと考察する。

※結果としてウイルスに感染しても本機装置の機能が効力として発揮されれば、初期感染であったならば、徐々にウイルスは不活化され、発病から免れられるのではないかと考察するが。

以上

令和　３年　１月２７日記付松井エネルギー研究所　　主任研究員松井嗣光

機　能　性　扇　風　機　　⑤

第２次試験終了（デルタ株）

第３次試験終了（オミクロン株・食中毒菌・ノロウィルス）

※前期前同衛生研究所への依頼検証結果の報告

試験資材「５類コロナウイルス」（ＳARS-CoＶ-2；δ 株・オミクロン株）に対する不活化効果試験

試験開始依頼期間　　２０２０年２月２０日から

試　験　終了　日　　２０２２年９月１４日までの間

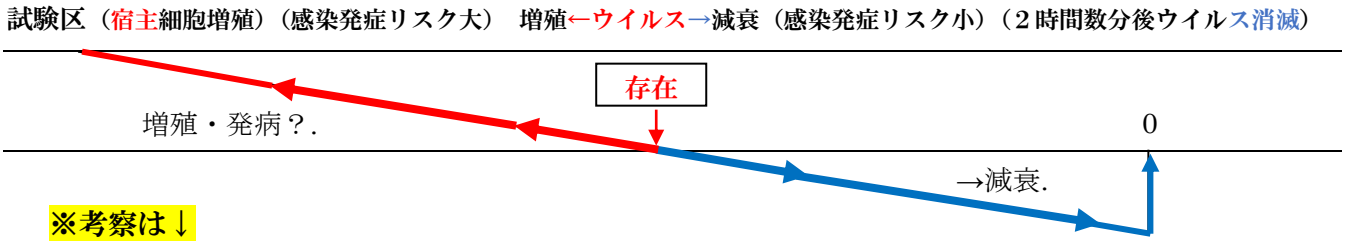
下記は、検査の１部抜粋

評価方法↓

試験結果において、検査時点ごとに，対象区に対する試験区の現象率（%）を算出し効果を確認した。

尚、本試験において減少率は以下の式で算出した。

$$\text{減少率（\%）} = \frac{\text{対象区} - \text{試験区}}{\text{対象区}} \times 100$$



※考察は↓

今回の試験資材の①ＳARS-CoＶ-2；δ 株２時間の反応で、②オミクロン株２時間１０分の反応での、不活化効果試験を実施した結果

◉①試験区では、「93.5%」）のウイルス感染価現象を確認した評価を受けた。⇒（あと数分で消滅）

◉②試験区では、「93．７%」）のウイルス感染価現象を確認した評価を受けた。⇒（あと数分で消滅）

◉対象区は、「①２時間・②２時間１０分の査証では全く反応せず、変化なし」との結果であった。

結果は

※依って、本扇風機の磁気振動風を受動した時点から「浮遊ウイルス・付着ウイルス」「ＳARS-CoＶ-2」（インフルエンザウイルス・臭い等含む）等の「不活化進攻」は、薬の効能効果現象と同じように、徐々に効果を発揮し、２時間と少分で消滅していく検査結果であったことから、本機は活躍貢献の環境を見いだせたと思う。

令和　４年　５月２１日記付松井エネルギー研究所　　主任研究員　松井嗣光　　以上

扇風機機能検査終了結果　⑥

（※第１次・２次・３次他依頼分、全て目標達成しての結果として終了

コビットー19；δ株・オミクロン株・インルエンザ・
豚コレラ・臭気・食中毒菌・ノロウイルス終了

↓

※国内特許取得済（特許第 5540429 号；同 5681997 号＋１件）
※国際特許審査中⇒国内移行分は取得（過去の検証事例と「新発見追加含」）

１）　室内空気の活性浄化⇒基底作用から励起作用（文献⇒特許装置の活用）

２）　臭気の除去⇒**臭気分子のプラズマ介入解体作用**（特許装置：検証済）

３）　人体の血行促進⇒磁気共鳴作用（文献⇒特許装置の活用）

４）　人体の指圧効果⇒振動風圧作用（検証確認済⇒特許装置の活用）

５）　対害虫・菌忌避効果⇒交番磁気放射風及び地磁気羅針撹乱作用

(一部の人体害虫・細菌等含む)　（特許装置：検証済）

６）　磁気波動熱微風の送風⇒誘導過熱体**発熱作用**（特許装置：検証済）

７）　磁気波動涼風の送風⇒気化熱応用作用（特許装置：検証済）

８）インフルエンザウイルスの不活化効果⇒（特許装置：検証済）

９）**豚コレラウイルス不活化効果**、⇒（特許装置：検証済）

10)・５類コロナウイルス⇒（インフルエンザ等含む）不活化効果⇒（特許装置：検証済）

11）食中毒菌検証終了⇒大腸菌 99,99%・黄色ブドウ菌 99.97%・サルモレラ菌 99.46%→滅菌

12)・**ノロウイルス**検証終了⇒ウイルス減少効果確認（特許装置：検証済）

〒884-0006　宮崎県児湯郡高鍋町上江 7675-8　☎0983-22-5805
松井エネルギー研究所（令和５年吉月吉日付）